



Photo memories  
思い出写真

Impressions 1  
感想

「国際交流海外派遣事業で  
学んだこと」

堀越 一樹

出発の日、これから始まる研修に朝から期待と不安で胸がいつばいでした。

僕はこの交流事業研修に参加するにあたっての一番の目標は、恥ずかしながら自分に積極的にコミュニケーションをとるということでしたが、いざニュージーランドに到着すると文化や習慣の違いに最初はとまどってしまいました。

オタマテアハイスクールでは、授業でやるのがあまり分からず話しかけようとしましたが、恥ずかしさで自分から話しかけることができませんでした。そんな僕を見てハイスクールの生徒から話しかけてくれたので、「あの時自分から積極的に話しかければよかった」と悔しい思いをしました。

しかし、「会話は言葉だけじゃない。笑顔で相手に伝えよう」という気持ちが大切だ」ということをこの派遣事業を通じて学ぶことができ、まだまだ未熟な

英語力ですがジェスチャーなどを使って、研修の後半には自分から積極的に話しかけることができるようになりました。

最初は言葉が通じるかとても不安でしたが、ホストファミリーの方々はとても優しい方だったので、家族の会話に参加する努力をしながら一緒に酪農作業をしたり、ゲームをしたりしてコミュニケーションを図ることができ、毎日楽しく過ごすことができました。5日間のホームステイを通じて「コミュニケーションは、人を笑顔にできるとてもすばらしいものだ」ということを感じました。

僕は、多くの人との出会いを通じて、文化の違いや生活習慣の違いなどさまざまなことを肌で感じるようになりました。あらためて日本のすばらしさも強く感じました。また、ニュージーランドの海の美しさや広大な自然もとても印象に残っています。

今後はこの経験を活かし、もう少し積極的に英語でコミュニケーションをとれるように英語力をみがいていきたいと思っています。将来の夢はまだ決まっていませんが、この研修で学んだことを活かしてこれからもたくさんさんのことにチャレンジしたいと思っています。そして、何事にも積極的に取り組んでいけるように努力を惜しまず、最後まであきらめない気持ちで頑張りたいと思います。

長いようであつという間の9日間でしたが、この交流事業研修に参加することができて本当に良かったです。とても充実した9日間でした。

このようなすばらしい体験ができたのもオタマテアハイスクールの皆さん、ホストファミリーの皆さん、引率の先生方と一緒に参加した友達、家族のおかげだと感謝しています。ありがとうございました。

Impressions 2  
感想

「国際交流海外派遣事業に  
参加して」

古崎 未来

ニュージーランドで私は様々な貴重な体験をすることができました。

まずはホームステイです。私のホストファミリーはお父さん、お母さん、お姉さん、エリンの4人家族でした。初めは緊張して話すどころかうまく反応することさえできませんでした。また、英語が聞き取れず自分が何を言われたのかさっぱりわからないということも多くありました。どうにか慣れようと思い、持つて行ったお土産や写真を身振り手振りや知っている単語を使ったりして説明しました。ホストファミリーも私ができるようにとGoogleの和訳機能を使って話してくれたりしました。そうしていくうちにだんだんと慣れていくことができ、話す内容もなんとなくわかるようになっていきました。

文化や習慣の違いに驚いたことや戸惑ったこともありまし

た。まず食事のことです。ニュージーランドでは、というより外国では「いただきます」や「ごちそうさまでした」といったあいさつをしませんし、お皿を持つて食べることもしません。行く前から知っていたものの実際にそのような場面になってみると戸惑ってしまいました。また、モーニングティーという10時頃におやつなどを食べて休憩する時間があり、学校なのに堂々とお菓子を食べる姿に少し衝撃を受けました。学校では他にもたくさん驚かされた。

教科ごとに教室を移動すること、歯医者が学校の中にあること、チャイムが火災報知器のベルみたいなこと、避難訓練なのに話しながらゆっくり歩いていること、などなど日本との違いがたくさんあっておもしろかったです。

次に観光です。とても美しく神秘的だった鍾乳洞とツチボタル、マオリの文化に触れら

れたショーや村の見学、ニュージーランドの畜産のことを知ることができた牧場見学、歴史やゼロ戦など戦争について学べた博物館などたくさん所へ行きました。また、ニュージーランドはとても自然が豊かです。

一面に広がる緑や澄んだ空、きれいな青い海、そしてプラネタリウムのようにきれいな星空に私は感動しました。その素晴らしい自然の中でやった初めてのシノーケリングやカヤックは強く印象に残りました。

この事業で学べたのは英語だけでなくありません。私はいつもたくさんの方の優しさに支えられているのだということ、技術や知識などよりもまず重要なのは気持ちだということなど、とても大切なことをたくさん学ぶことができました。この事業で学んだことをこれからの生活に生かして将来に役立てたいと思います。

Message from graduates  
卒業生からの言葉

初めての国際交流で  
感じたこと



高岡 一誠

私は、平成19年度から多古町が実施しているニュージーランドとの国際交流事業の第一回目と二回目に参加させていただきました。

第一回目で、ニュージーランドから日本にやって来た学生さん達をホストファミリーという形で受け入れをし、そして第二回目で、今度は私たちが実際にニュージーランドへ行き、そこで一週間のホームステイ、また現地の学校を訪問するなど様々な体験をさせていただきました。当時私も中学生で、これまでに海外旅行などの経験も一切なく、この国際交流事業が私にとつて初めての海外経験となりました。日本とは食事や文化などが異なる環境での生活は全てが非常に新鮮で、同時に大きな刺激を与えてくれました。その中でも一番大きかったのはやはり言語の違いでした。生活していく中で英語しか使えないという環境に置かれたのは初めてで、色々な苦労もりましたが、同時に英語を話せるようになってい、英語を身につけ、ニュージーランドだけでなく世界中の人々と交流したいと強く感じるようになりました。

この国際交流での経験がきっかけで、私は高校の英語科へ進学し、現在は大学で英語を専攻しています。そして将来は英語を使った国際的な職業に就きたいと考えています。中学生という早い時期から実際に海外を訪れ、現地でのホームステイなどの様々な体験、また海外からやって来た人々と交流するといった体験をすることが出来るという事は、非常に貴重な経験であり、これからの進路選択に大いに役立つと思います。中学生の皆さんもぜひ、この国際交流事業に積極的に参加し、様々な体験を通して日本のみならず海外へと、より広い視野を持つためのきっかけをつかんでくれたら嬉しいです。

